（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令 和 6 年 度 学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立川口特別支援学校鳩ケ谷分校 ）　S39

目 指 す 学 校 像	仲間と共に 自ら学び 未来を切り拓いて 豊かに生きる

重 点 目 標	1　丁寧な実態把握と個々のニーズに応じた指導・授業の充実 2　地域との連携強化とインクルーシブ教育の推進 3　元気で活気のある学校づくりと安全・安心な教育環境づくりの推進

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	１１名
	生徒	５名
	事務局（教職員）	３名

学　校　自　己　評　価								学　校　関　係　者　評　価
年　度　目　標					年 度 評 価 （ １ 月 ２ ３ 日　現 在 ）			実施日　令和７年１月３１日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	○学習指導要領の実施状況を具体的に確認しつつ、地域の中でよりよく生きるために必要な力が身につく授業実践が必要である。生徒の障害特性を丁寧に把握し、個々に応じた指導内容・授業づくりを進める。	○生徒一人一人に合った授業を展開する	○各教科・教育計画について評価・修正を行い、３年間を見据えた教育課程の検討及び整備を行う。（通年）〈教務部、教育課程委員会〉 ○保護者と合意形成を図り、障害特性を踏まえた教育支援プランＡ・Ｂを作成し、教育活動を行う。（通年）〈教務部〉	○指導計画の評価・修正を行い、３年間を見通した教育課程の見直しができたか。 ○教育支援プランを指導、支援に活かすことができたか。	○鳩ヶ谷高校の特別教室等の空き状況を確認しつつ、教育課程の改善に向けて取り組むことができた。 ○夏季休業中に総合教育センターから講師を招聘し、全教員を対象に教育支援プランの研修を実施した。	B	○３学年が揃うことで、各教室での教科や縦割りの作業、学年での授業や全体での授業など、それぞれの課題を把握し、改善を図っていく。	○保護者アンケートでは、教育活動や授業内容について、おおむね良い評価を得ている。３学年がそろう次年度以降、より一層の丁寧且つ個々に応じた指導や支援を期待している。
	○ICT 端末活用スキルを高め、個々の教育的ニーズに応じたわかりやすい教育を実施する必要がある。		○1 人 1 台端末を活用し、わかりやすい授業を展開できるよう教員研修を実施する。（通年）〈教務部、情報部〉	○教員研修を授業に活かし、ICT 端末を授業で使うことができたか。	○様々な機会に ICT 機器を使用することで、教職員の活用頻度を高めることができた。	B	○教員の得意不得意はあるが、鳩ケ谷分校全体として研修を行い、ICT 機器を有効活用した授業づくりを推進していく。	○学校見学で参観した情報の授業は、分校だからこその工夫された内容だと思う。生徒たちの興味関心をさらに引き出す工夫をしていただきたい。
2	○各関係機関との関係性は良好である。今後も職業教育の充実に努めていく。一方で校外での活動場所や機会が十分に確保されていない現状がある。生徒たちのより幅広い教育活動を実施可能な施設及び環境を整えて行く必要がある。	○地域での活動を大切にした教育活動の実践と鳩ヶ谷高校との連携	○地域で継続的に活動できる機会や場所、活動を創出する。（通年）〈教務部、作業担当〉 ○日々の活動を学校ホームページに掲載する。（通年）〈教務部、情報部〉	○継続的に活動できる機会や場所を増やすことができたか。 ○学校ホームページの更新を週に３回以上更新することができたか。	○コミュニティスクールを有効活用し、実習場所や作業の活動場所の開拓につなげることができた。 ○今年度ホームページのブログだけで１５２回（１月２３日現在）更新した（およそ週に 3.5 回）。	A	○引き続き、地元の実習先の拡大や作業班の活動場所拡大を目指し、地域に貢献できる分校を目指していく。 ○ホームページの更新を組織的に行うよう、体制を構築していく。	○次年度３学年がそろい、卒業後に向けた進路指導も本格化していくと思う。保護者としても、生徒本人たちとともに学びながら進んでいきたいと考えるので、先生方と連携しながら進んでいきたい。
	○昨年度の実践を基に、インクルーシブ教育の推進に向け、鳩ケ谷分校と鳩ヶ谷高校との交流及び共同学習の更なる充実に向けて、計画・調整を進める必要がある。		○高校との連携を密にし、高校への行事の参加や交流及び共同学習を計画的に行う。（通年）〈教務部、支援部〉	○交流及び共同学習について適切に準備を進めることができたか。また、実施することができたか。	○鳩ヶ谷高校との連携を密にし、計画していた行事やふれあい交流会を実施した。	A	○ふれあい交流会の拡大や分校見学ツアーの実施等、鳩ヶ谷高校との交流及び共同学習について連携を深めていく。	○行事等を中心に、鳩ヶ谷高校との交流及び共同学習が進んでいる様子であるが、同じ敷地内で学ぶという利点を今後も生かしていってほしい。 ○交流及び共同学習の進展を確認する評価指標があるとよい。
3	○職員増に伴い、一人一人の業務分担を組織的に整備する必要がある。働き方改革を意識し、ワークライフバランスへの意識向上と、その取組を行う。不祥事防止について、N 字型研修を計画的に進める。	○働き方改革の推進及び不祥事防止の徹底	○教科会及び会議の効率化を図る。定時退勤の奨励、時間外在校時間の削減に向けた取組を行う。（通年）〈企画委員会・衛生委員会・学年〉 ○日頃から注意喚起を行うと共に、N 字型研修を計画的に実施する。（通年）〈企画委員会〉	○ノー会議デー、ふれあいデーで、定時退勤を目指した計画的な業務遂行ができたか。 ○不祥事防止を徹底できたか。	○ノー会議デーを３５回、ふれあいデーを１０回（１月２３日現在）実施し、定時退勤を促した。 ○１月２３日現在、鳩ケ谷分校内での不祥事は確認されていない。	A	○教科会及び会議はある程度精選できている。教員個々の仕事量や負担に差があり、時間外在校時間の削減には至らなかったため、次年度の課題としたい。 ○引き続き不祥事防止に向けて、研修や啓発を実施していく。	○人員不足や負担、仕事量の増加など、教員の労働状況はとても過酷だと思う。教職員への支援も必要となると考えている。
	○緊急事態に備え、様々な状況を想定した訓練や研修に取り組む必要がある。鳩ヶ谷高校と連携し、発生状況に応じた組織的な対応及び訓練と、危機管理マニュアルの適宜見直しが必要である。		○計画的な備蓄品の購入と、鳩ヶ谷高校と大規模災害を想定した訓練や研修を行う。また、緊急時に備えて情報伝達手段の準備を進める。（通年）〈保健安全部・情報部〉	○鳩ケ谷高校と連携し、より実際に沿った訓練ができたか。また、危機管理マニュアルを適切に見直すことができたか。	○鳩ヶ谷高校と連携し、計画されていた訓練を実施することができた。大規模災害に備え、ＰＴＡとも連携し備蓄品や連絡手段の準備を進めている。	B	○３学年が揃い、これまでよりも人数が増えるため、効率よく迅速な避難や有事の際の研修及び訓練を進めていく。	○防災備蓄をＰＴＡ組織と連携しながら整備していき、有事の際に全員が困らない準備を進めていってほしい。